

# ばらんす

発行編集 大田原市教育委員会生涯学習課女性企画担当 〒324-0041 大田原市本町1丁目3-3 ☎0287-23-8718・FAX 0287-24-2528

## 女性も政治に

## 男性も暮らしに関心を!

男女共同参画社会の実現を目指し、大田原市においても、女性の地位や福祉の向上、社会参加の促進を図っています。近年、職業を持つ女性や、社会活動に参加する女性が増え、社会の発展に重要な役割を担うようになっていきます。このたび、大田原市議会はじめて以来の女性副議長に就任した永塚和子さんに、女性の地位向上に関するメッセージをいただきました。

私は今、政治決定の場にもいます。ともしんどいです。でも逃げる気はありません。支えてくれる夫がいます。同居こそしていませんが、息子や娘たち、そして地域のたくさんの方の仲間たちがエールを送ってくれています。

今の日本の政治に女性が参画する際の課題はたくさんあると思いますが、八年間の

政治参画で特に感じた問題点は次の三点です。もちろん異論はあるでしょうが私の考えです。

一つ目は、政治は男の仕事で女にはむかない、という特に男性側の意識、二つ目は、男性優位の組織運営、三つ目は、女性一般の政治的無関心です。

「政治は男の仕事で女にはむかない」という意識は、女性一般の政治的無関心です。政治参画で特に感じた問題点は次の三点です。もちろん異論はあるでしょうが私の考えです。

「社会は女性半々に支えており、男も女も政策決定の場に平等に参画することを国が積極的に取り組んでいます。しかし、以前は女性は家の中

でした。」と説明する女性問題担当局長は四十代前半のきびきびとした感じの女性でした。また、県主催の『婦人の翼』

でデンマークに行ったときのこと、国の機関である労働委員会女性の局長は、私たちの質問に答えてこう言いました。「家事分担は、私が三日、夫が二日、息子が二日と当番制にしています。おかげで当番以外の日は、安心して仕事ができます。」

目を丸くしている専業主婦の多い私たち団員に、彼女は続けてこう言いました。「最初からそうだった訳ではありませんよ。こうなるまでに十六年かかりました。」

なに！日本とあまり変わらないじゃないの...と職業婦

人だった私が実感した瞬間でした。

一人ひとりが男女平等の意識を高めていくことはもちろん、男も女も気持ちよく仕事や家庭や地域で活躍できるように、社会の仕組みを変えていくことも重要な課題です。

世界の国々では、男は仕事、女は家庭、の役割分担という社会的性差（ジェンダー）を無くしていくことが、国づくりのために欠かせないと捉え、積極的に女性登用に取り組んでいます。

政治を男性に任せて社会が変わるのを待っているのではなく、国や自治体の政策に関心をもち、積極的に発言していくことが、今、女性に求められているのかな...と思います。みんなと頑張っていきたい。

(永塚和子)



永塚和子さん





# 『男女共生を考える大田原のつどい』盛大に開催!

「男女共生を考える大田原のつどい」が、去る一月二十一日(土)大田原市総合文化会館ホールで、四百人近い市民の方々の参加のもと盛会のうちに開催されました。オープニングアトラクションとして、大田原女子高箏曲部のみなさんによる琴の演奏があり、その後、福島県飯舘村村長の菅野典雄さんによる講演、村の女性二人を交えてのお話といった具合に、大変盛り沢山の内容でした。ここに講演のあらましと、参加者の声をお届けします。



大女高箏曲部員による琴の演奏

『現代は時代の変革期が分かりにくい、私たちは流れを読み取って諸問題に正面から取り組んでいくことが大切だ』と思う。自分の暮らし方を自分でデザインしていける人が増えていかないと、これからは組織も会社も自治体も活性化しない。「自分の暮らし方を自分でデザインする」というのは、身辺に山積みしているものを自分の人生の張りに

していこうということですが、

これまでの固定観念、規範、常識から脱却できない固い考えでは、「自分の暮らし方をデザインする」ことも不可能であり、意識的に頭を柔軟にする訓練が必要な時代に来ている。

飯舘村は、十数年前に「若妻の翼」という、お嫁さんたちを海外に派遣する事業をスタートさせた。三十代のお嫁さんは、農繁期や家庭の経済立場上の事情から、簡単に家の外に出られないのが実情です。海外研修後、このような事情の中から、各自が殻を破って出て、いろいろな事業を展開したり、夫や家庭、世間と正面から向き合っている。限り絶対によい人生が歩めないことが分かってきた。男は仕事、女は家庭という話ばかり崩れてきました。そういったことを女性は敏感にとらえ

生き方、暮らし方の勉強をし

ている。男性は仕事以外の勉強をしていないために女性と男性の考え方の隔たりが拡大している。男性もただちに考え方を変えていただきたい。「女房は俺の物」ではなく、一緒に過ごしていることよって人間として成長させられるというのがこれからの夫婦の関係だと思う。」

講演のほんの一部しか掲載できないのが残念です。最後に相田みつをの詩を用いて、そのうち、そのうちといって何もやらないで一生の幕が下りてしまうような人生ではなく、満足して一生を終えていけるような、そんな人生がこれからの人生ではないかと結びました。

講演後、実際に「若妻の翼」で海外研修に参加された佐藤さん、北山さんを交えての話も、私たちにたくさん示唆を与えてくれました。



講演する菅野村長と佐藤さん、北山さん



講師を囲んで記念撮影

## 声

### 30歳代女性

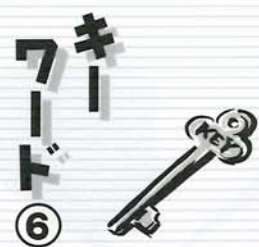
● 仕事を持ち、家庭をつくっていく私たち女性にとって、はとでも前向きになれる話でした。

### 40歳代女性

● 主人や祖父、祖母にも聞かせたかった。何をしようとしても家族への遠慮があり難しいが、この講演を契機として前進したい。

### 50歳代女性

● 講演は自分が普段考えていることと重なり、興味深く聞きました。「若妻の翼」に参加した二人の女性は生き生きと生きていて、素晴らしかった。考えていても出来ない、自分の殻を破る勇気を持ちたいと思う。



### ● セクシャル ハラスメント

性的嫌がらせのこと。職場でのセクシャルハラスメントについては「相手の意に反した性的な性質の言動を行い、それに対する対応によって仕事を遂行する上で一定の不利を齎す」とされ、それを繰り返したり、それを繰り返すことにより就業環境を悪化させることとされている。タイプとしては大きく二つに分類され、雇用上の力関係を利用して性的な嫌がらせを強要する「代償型」と、屈辱的、敵対的な言動によって職場環境を不快にする「環境型」があるといわれている。



◆講座◆

生涯学習課では、女性の地域活動を確かなものにするため、あるいは積極的に地域活動に参加する女性指導者を育成するため、「女性のためのステップアップ講座」、「女性有志指導者実務講座」の二つの講座を開催しています。講座を受講したふたりに感想を聞きました。

ステップアップ講座を

受講して

住吉二 松本 典子

広報「おおたわら」の中でこの講座の存在を知り、開催場所が地元であること、開催される講座への参加費用が無料ということ、各回さまざまな分野で活躍されている方の興味深い講演が聴けるという理由が受講へのきつかけとなった。普段仕事に就いていても月1回程度の開催であれば無理なく参加でき、また、たまの休暇も目的のないまま無駄に過ごすよりは何かのために時間を使う方が結果として何か残るのでは、という思いもあった。聞こえはいいか



ステップアップ講座受講風景

もしれないが、自分自身をも一度改めて振り返り、何かを気付けるきっかけになれば、と思ったのが本音である。仕事において、経験を重ねることで自信や、やりがいを感じる反面、立場や責任の重さを実感し、いろいろな疑問や思いが自分の中に生まれ、少し立ち止まって違う視点や環境から自分を含めいろいろな事を見渡してみるのもいいのでは、と思った。

講座を終了した今、参加できて良かったと実感している。いろいろな方と講座を通して知り合うことができ、また、毎回講演をしてくださる方々は今の自分の人生、時間、存在を有意義に楽しく生きがいとして歩んでいるということなどを堂々と話されてい

迷っていないで

参加しよう

山の手二 瓶 浩美

た。それはとても素晴らしいことであると同時に、これからの生き方に問いかけや刺激を与えてくれた今回の講座であった。

大田原市が主催する女性のための学習講座「女性リーダー研修」(現在の「女性のためのステップアップ講座」)を二年終了後、引き続き「女性有志指導者実務講座」を受講して二年になります。感想を聞かれたら、「こんな企画があるのに知らないなんてもったいない、思った時がチャンス。迷っていないで参加しましょうよ。」と答えるでしょう。

講座の内容は、郷土の歴史、心身の健康や介護に関すること、心理学、女性の労働や社会参加、国際理解、研修視察など多彩で、各方面で活躍されている講師の方々の講義は実技あり、フリートークありで、わからない所はその場で質問できるのも少人数の利点です。自分の知らない世



有志指導者実務講座「国際理解」受講風景

界が少しずつ広がっていくのが何より魅力です。

七月に始まり月一回、十時〜三時の講座が計六回なので仕事を持っていても都合がつけられるし、学校に行っているお子さんのいる方も参加できます。

学んだことが即、地域のお役に立つというほど甘いものではありません。でも少しでも多くの方が学ぶことの楽しさを知り、自分の頭で考え、他の意見や個性を尊重しつつ自分らしさを忘れずに、自分でできることから行動をしてみ、これが始められたらきっとまちづくりの小さな一歩になるような気がします。

ひとくち インフォメーションボード

「女性のためのステップアップ講座」受講生募集!

- ★開催趣旨 女性の地域活動を確かなものにするための指導者の育成
- ★対象者 自治公民館、各種ボランティア団体より推薦された方、あるいは市内に住む女性で地域活動に関心のある方
- ★研修期間 平成12年6月から12月までに6回
- ★内容 多様化する社会に対応できる女性のリーダーとしての教養、組織運営地域活動に資するための講話、実技・演習、見学等による研修
- ★申込方法 広報「おおたわら」平成12年5月1日号に掲載(詳しくは生涯学習課 TEL23-8718へ)  
(\*なお、女性有志指導者実務講座は、ステップアップ講座を2年修了した方が対象となります。)



# 『栃木県女性の海外研修』

## に参加して

浅香一杉 山 真美子

栃木県内各地区で活躍する三十名の女性。初めて顔を合わせて自己紹介、緊張で心臓が口から飛び出しそうでした。自分の気持ちを文章にまとめ、思ったことを頭の中で整理をし人前で話をする。訓練の必要性を真から感じました。見知らぬ女性同士が同じ部屋で枕を並べ、一緒に風呂に入り、食事をする。私にとっては大変貴重な経験でした。

四回の事前研修を終え、十月五日早朝県庁出発。期待と不安と緊張が入り交じる中、団員と役員を乗せたバスは成田へと向かいます。団員が親交を深め、十三時間の空の旅はアツと言う間に過ぎていききました。パリに到着。

次の日、TGV(フランスの新幹線)に乗ってマルセイユへ。「老人ホーム」「成人教育機関」「暴力を受けた女性を助ける機関」他三ヶ所の研修後アヴィニヨンへ移動。ヴォークリュエ

ズ県議会表敬訪問、そしてホストファミリーとの対面。真っ青な空とさわやかな風、ホストファミリーのなんとも温かな笑顔が不安を吹き飛ばしてくれました。私はこの滞在中に五十才の誕生日を迎え、ホストファミリーと団員から祝っていたとき、忘れることの出来ない思い出を増やしました。夜、ムッシュがパイプの煙をくゆらし、マダムがアルバムを開く、ゆつたりとした団らん。今の日本ではなくなってしまうのでは……。言葉の違いや外国でのホームステイ体験。何の心配もなく、優し

く時間は流れ三泊四日の滞在は瞬間に過ぎて行きました。アヴィニヨン→マルセイユ(飛行機)→ロンドンへ。ロンドンでは七ヶ所の施設研修と「テーマ別研修」。私たちは、日本女性がロンドンに単独で行き、美容室を開いた方の店訪問と開いた経緯を聴

きました。一歩踏み出す勇気と行動力、そして努力なのだと思います。生き生きと自分らしく生きる姿はまぶしく、輝いて見えました。

十六日、団員全員事故も怪我も無く無事帰国。この経験は私の宝物になり、それぞれの団員から受けた感動は、私の財産です。他人に無関心でいることは自分にとっての成長を止めているように思います。人と会い、物にふれ、目と目を傾け、外を見ると多くの物が飛び込んできます。そこでの驚きと感動を大事にしたいと思っています。アンテナを磨き、手を伸ばしましょう。何かに触れるかもしれせん。自分がさび付いていると近くに素晴らしい人が居ても見えないのです。



ホームステイ先のファミリーと

## 役員として参加

団員の皆さんと立場は違いますが、学ぶことはほとんど一緒でした。栃木県の女性行政、女性問題についての学習、班別・係別グループ活動、県内施設訪問等膨大な量の事前研修に努め、現地研修に臨みました。

さまざまな分野の施設訪問、ホームステイ体験において感じたことは、日本ではまだまだ浸透していない「個」の尊重と自立です。男も女も、若者も老人の差別なく一人の人間として尊重され、そして、しっかりと自立して生きている。

また、ボランティアに対する考え方についても学ぶべき点が多々あり、これからの行政の中で、それらを自分なりに生かしていければなど思っています。

すべての研修を終えた今、後々の自分の人生の方向付けができたようであらう。日々の仕事に忙殺され、将来のことなど考えたこともなかった私ですが、五十歳という節目の年に、このような意義のある研修に参加できたことはとても幸せだと思えます。

(女性企画担当 田辺)

## 編集後記

◆あちこちで春の息吹が感じられる季節になりました。三月は巣立ちの季節です。この大田原市という小さなまちから、大海に羽ばたき、大きくなってまたここに帰って来てくれることを願わずにはいられません。

◆昨年十月、栃木県女性の海外研修に役員として参加しました。事前、現地、事後研修と、長期にわたりさまざまな勉強をしてきましたが、すべてが終わった後の充実感は何とも言えません。毎年行われております事業です。ぜひ皆さんも積極的に参加し、大田原市のまちづくりに参画していただきたいと思えます。

